



## 雄飛会 学年1位奪取 470点の壁のブチ破り方

### 目標設定①

富士山に登ろうと心にきめた人だけが富士山に登ったんです。  
散歩のついでに登った人はひとりもいませんよ。

ジョージ秋山『浮浪雲』

高校受験も同じ。  
志望校に合格しようとして心に決めた奴だけが合格する。  
志望校に合格しようとして心に決めてない奴が合格することはない。

中間期末テストも同じ。  
目標をたてる意味はここにある。

「成績が上がるように精一杯がんばりたいと思います。」

はい？  
こういうのは目標ではない。

「成績を上げる」って、  
何点？どの教科？いつまで？  
「精一杯」って、  
どのくらい？  
「がんばる」って、  
何を？どのように？どのくらい？

社会人では目標設定は非常に重要視されています。  
そして、よく言われるのが、“SMARTの法則”。

しっかりとした目標を定めるための基本ルールです。

- S・・・Specific（具体的であること）
- M・・・Measurable（計測できること）
- A・・・Achievable（実現できること）
- R・・・Realistic（現実的であること）
- T・・・Timescale（期限が明確であること）

「浦高に合格するために、次回の3月1日の学年末テストで、理科・社会を95点以上にし、総合470点以上取る。そのために、いままでのテスト勉強に加えて、今日から理科・社会のワークを毎日1時間やるようにし、学年末テストまでに、3回繰り返し、できない問題をなくす」  
もっと具体的でもいいくらいです。

“SMARTの法則”で本物の目標を設定し、それを日々の生活に落とし込み、日々サボることなく一步一步実践する。

雄飛会では、“SMARTの法則”にプラスして、  
目標が達成できるか、できないかのキワキワのところに目標を設定します。

ちょっとでも甘えたり、自分に負けると達成できないラインです。

そのキワキワのラインが一番人間が本気になりやすく、一番実力が伸びる目標設定なのです

## 目標設定②

未来から逆算して、現在の行動を決定する。

99%の人間は、現在、こうだから、将来はどうなるのかと考える。  
1%の人間は、将来はこうなるから、現在、どのように行動すべきかを考える。  
もちろん後者の1%の人間だけが成功する。

神田昌典

「このままで志望校に受かるかなあ〜？」と、日々自分の心地よいペース・楽なペースであまり変化のない勉強をするなよ。

「絶対に、志望校に合格する！だから、“今”、“ここで”このように勉強するべきなんだ」と圧倒的な勉強を実践しろ。

## 圧倒的勉強

理想のバッティング・フォーム？

もし、君がそれを知りたいならば、一晩中、素振りをしなさい。一晩中、素振りをし続けて、疲れたときに出てくるフォーム。それが、君にとって一番無理のない理想のフォームだよ。

張本勲

わかる？一番いいフォームは、努力の末にわかるものなんだ。

何もしていないうちから、「勉強の仕方がわからない」とか、わけのわからない寝言いってんじゃねえ〜ぞ。

これ前提。

雄飛会の方程式、

## 結果 = 「質」 × 「量」 × 「魂」

この三つの要素、意識してコントロールできるのは「量」のみ。

まずは、勉強量を増やせ。

「量」をこなせば、こなすほど「質」が良くなってくる。

「質」（勉強の仕方）を考えているうちは、なんの変化も生まれない。

学年1位の奴の勉強量は想像を絶するよ。

そして、雄飛会 **100点主義** について。

才能を開花させるためには、

80点主義で満足をしていてはダメなんだ。

ガチガチの100点主義でいかなくは。

「これくらいでいいや」は徹底的に排除する。

この20点の差は受験に対する「本気度の差」！

この差は途方もなく大きい。

まあ、普段の中間・期末で80点台なんてとって満足していたら

浦高一女大宮なんて到底無理だよ？

だって、範囲があるテストで80点の奴が

範囲のない本番で80点以上取るとはあるはずがないからね。

真剣に100点を狙うことでしか成績の向上はありえない。

雄飛会の求める100点主義とは？

① 量を増やせ

② その一問一問の吸収率を MAX に高める

- ・ごまかさない
- ・できるふりをしない
- ・できた気にならない
- ・答えまでのプロセス、理屈を大切にす
- ・周辺知識もひろっていく

同じテーマの違う問題が出題されてもしっかりできる自信が生まれてくるような勉強をしなければならぬ！

2度目の間違いは「イエローカード」警告です。

3度目の間違いは「レッドカード」さようなら。

できない問題や覚えてない知識に出会うことは最大のチャンスであることに  
気付きなさいよ。

感謝しながらそのチャンスを活かすことが重要！！

③そして①②を緊張感を持って継続すること

①②③はセットです！

どれが欠けても本質的な学力向上にはつながりません。

成績を一気に上げようなんていう、ありえない「大きなこと」

を無駄に求めるのではなく、

100点主義での

1日1日、1時間1時間、1問1問の積み重ねという「小さいこと」

を大切に！！

気合いが入ってきたら、

## 「準備」→「実行」→「後始末」のサイクルの循環

をしっかり意識する。

## 「後始末」

前回のダメなところ、悔しさ、反省を今回のテストにどう活かすかが重要。

テスト勉強の改善を積み重ねていく。

なにげなく無意識にテスト勉強に入るな。

昨日と今日の一日で、目標に向かって何が変わったか？

変わってない？

そしたら、去年と今年で何も変わらない。

変わるわけがない。

同じことを繰り返しておきながら、異なる結果を期待するとは、

きっと頭がどうかしているのでしょう

アインシュタイン

「あんたバカア？」

と言ったのは、エヴァンゲリオンのアスカ（笑）

今日を変えることだけが、今年を変えることにつながる。

「いま」・「ここで」しか存在しない。

で。

昨日と今日の一日で、目標に向かって何かを継続し、貫いたことがあるか？

ない？

今年もフワフワ浮遊して終わるつもりなのか。

目標に向かって、今年を貫くものが必要じゃない？

ずっと変えずに継続し、積み重ねること、持続するという

不断の努力だけが人生を変える。

目標に向かって、何を変えていくのか？

目標に向かって、何を変えずに継続するか？

この「原理原則」がお前の人生をつくりあげる。

「人生」は遠いところにあるようで、実は、

昨日と今日の間の変化、

「いま」・「ここ」にしか存在しない。

「合格」とは”格”に”合う”と書く。

今日一日の行動が、

志望校の”格”に見合うかどうか？

それだけが問われている。

**「常に一步前進することを心掛けよ！停止は退歩を意味する！」**

野村徳七

雄飛会的には、「停止は逮捕」ですけど（笑）

だからこそ、「一步、前へ！」

そこには「どうすれば？」という試行錯誤・葛藤・苦悩・悔しさが常に必要。

そういう気持ちが極まった時に、前に進む。

極まった時ね。

もっと感じろよ。

オレが悔しくたってしょうがない。オレは全員そろって結果がでなきゃ、悔しくてしょうがないけど。

オレじゃなくて、お前が感じろ。

悔しくて、泣きながら勉強したことがあるか？

「負けず嫌い」の塊こと一柳は、何回かある。

コツコツと心地よい勉強なんて中途半端だ。やらないよりいいけど。

泣きながら、心地悪い勉強をガンガンやれよ。

泣きながら机に向かうっていうか、そういう姿勢が欲しい。

そういう姿勢でないと、平均点の引力をひきちぎれないよ。

同じ時間、同じ範囲、同じ中学生。

条件は同じ。

だったら、本気でやりゃ、負けるわけないんだよ。

伸びないわけないんだ。

雄飛会生はなおさらだ。

# 「準備」

実は、テスト勉強前に勝負がついているのだよ。

① 凡人と最上位生の違いは、学校の授業でついている。

授業で吸収し尽くしているか

テストを意識して毎回の授業を受けているか

記憶・暗記の作業ですら授業中にできる

② 「やればできる暗記モノ」の扱いの違いが天と地ほどある

凡人はテスト勉強、テスト期間に暗記モノに時間をかけまくっている。

最上位生はテスト勉強、テスト期間ではなく日常からコツコツやっている。

極論、テスト期間に入るところには暗記モノは終わっているということ。

1位奪取のコツは二つある。

コツコツ。

これしかない。

ちなみに雄飛会は国語の漢字・社会の知識、理科の知識、英語の教科書の文章等は満点をとって当たり前ですよ。

# 「実行」

最大のポイントは、

**できることに時間をかけるのではなく、できないことをできるようにすることに時間をかけること！！**

凡人は、できることの確認ばかりに時間をかけ自己満足している。

凡人は、得意な科目ばかりに時間をかける。

凡人は、きれいなノートをまとめることに時間をかける。

アホ。

**頭に入っているのか、活用できるのか、問題が実際に解けるのか**

が重要。

数学を例にとって見よう。

(1) 問題集もやらない・・・論外ステージ

(2) ひととおり問題集をやリ、丸バツをつける・・・平均点に届かないくらいのステージ

雄飛会的には塗り絵ステージ。幼稚園生でもできると怒鳴られます。

(3) 出来なかったものをできるようにしておく・・・本当の勉強ステージ

このステージだと平均点は越し、たまたま良い点数をとることはあります。

で、最上位層もっている「ある感覚」とは、次のステージ。

(4) 問題を見て、どうやるのかなと考えることなしに瞬時に解法が思いつくまで、やりこむ。

テストの時に、頭を使って答えることはない。

暗記と言えば、暗記だけど。丸暗記とは違う、演習量に支えられた暗記。

頭を使う作業はテスト前には終わっている。

ここまでやるから勉強量は当然違う。

常に満点の奴の勉強量は、80点をうろちょろしている奴の約2倍。

で、ここまでやりこむとミス自体が減るのは当然ですが。

テストの最中に問題をどうやって解くかを考えながらやることはないので、  
時間自体かからないのですね。

余った時間は、見直しに回せます。

ミスが減るといふか、撲滅です。

また、本当の応用問題や思考を問う問題という差のつく問題に  
たっぷり時間を使えます。

できない問題をできるようにするだけでなく、すばやく解けるようになるまでやりこむ！ことがテスト勉強

その本質的なテスト勉強ができるようにするためには、

時間が必要。

そして、その時間は「**準備**」によって日常的に作られる。

## 復習を制する者、受験を制す

一回で覚え、一回でできるようになる奴なんていない。

人間、日がたてば、ほとんどのことを忘れる。

だからこそ、復習が大切。

しかも3回以上やれ。

その日にやる、遅くても次の日。一週間後、一ヶ月後にやる。

声に出す、書きまくる。

これ必須。

エビングハウスの忘却曲線をおさえろ！

20分後、42%を忘れる。

1時間後、56%を忘れる。

1日後、74%を忘れる。

1週間後、77%を忘れる。

1ヶ月後、79%を忘れる。

この法則を逆手にとって、しっかり復習を制しなさい。

最後に、**前のめいな姿勢**について

- もう紙一枚の努力の差
- あと五分の頑張りの差
- さらにあと一回の勇気の差
- もう一步の根性の差
- もう一つの粘り腰の差

雄飛会ではね、「頑張る」なんて中途半端なことは求めている。

大切なことは「頑張り抜くか」どうかなんだよね。

「勉強をする」なんていうことは求めている。

本気で結果を出したいなら、「勉強をやり抜く」かどうかだ。

やり抜いて、やりきって始まることがたくさんあるし、そこからがスタートなんだよね。

結果を出す奴は、凡人がゲームをしたり、テレビを見たり、勉強していないとき、ボーっとしているとき、必死に頑張っているというだけの話。

そして、怖いのは、その差が積み重なっていくということ。

才能を疑う必要はない。

でも、自分の時間、力、意識を100%の「唯一の目標」にブチ込んでいるか？

走って家に帰って、最初に最初に座るのが机、最初にやることがテスト勉強

くらいの前のめりの姿勢が必要。